

出張報告

報告日 令和6（2024）年 8月 9日

会 派 名	公明党
報告者氏名	眞貝維義、西川弘美
種 別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用 務	唐津市議会公明党意見交換
日 時	令和6年7月22日（月）14:00 ～ 同日 16:00
場 所 （会場）	佐賀県唐津市西城内1－1（佐賀県唐津市役所）
調査項目等	避難計画、玄海原発対策特別委員会の活動について
概 要	唐津市議会 会派 公明党 中川幸次、白水敬一、宮本悦子 議員と意見交換した。 ・唐津市は、佐賀県の西北部に位置し、玄海原子力発電所のある玄海町を囲む形で位置している。総面積487.6キロ平方メートル、人口114,875人（令和6年4月1日現在）。 ・避難計画については「唐津市防災ガイドブック」を提供いただいた。まず、原子力・放射能・屋内退避などの知識について説明があり、その後、避難計画の詳細の説明となっている。 ・「玄海原子力発電所原発対策特別委員会」は、平成17年に議員全員により設置した「プルサーマルに係る特別委員会」を継承し、玄海原発に関する諸課題全般への対応を目的として令和3年6月1日に設置された。これまで小委員会で執行部や九州電力と協議を重ねてきた。現在は、「玄海原子力発電所の安全・安心の確保に係る項目の対応状況」について進捗状況を確認し、国の動向を注視しながら更なる対策の充実と課題解決に向け議論を深めている。 ・他、地域振興としての原子力発電所の意義や、柏崎刈羽原子力発電所に関する情報提供、令和6年能登半島地震を踏まえての防災対策などについて意見交換を行った。
所 感 等	避難計画については、「唐津市原子力防災ガイドブック」の作り方が当市のガイドブックとは大きく違う点、特に原子力災害・放射能について、避難時の放射線量そして何よりも屋内退避の重要性が順に示されている点は、わが意を得たる思いがした。特別委員会でのテーマ、避難計画の在り方、ガイドブックの策定に参考にすべきと考えるところです。避難道路については国に整備を要望している点は同じ課題を抱えていると感じた。また、特別委員会の活動については、九州電力に対して提出した要望書の回答が返ってきていないので内容的には公表できないが、小委員会を設置し、各会

派から課題点を出し、市当局とも課題の整理等を行っているとの事であった。

(眞貝維義)

唐津市の防災ガイドブックは、「そもそも原子力とは？」という教科書のような導入に始まり、またデザインを親しみやすくするなど、住民目線で広報の役割も果たせていると感じた。

唐津市も毎年1000人が減る人口減少社会にある中で、約4000人の従業員がいる玄海原子力発電所については、「原発と共にある」という共生の考えがある。周辺自治体の議会として玄海原子力発電所対策特別委員会を設け、安全対策、地域振興策など諸課題に対して議会として議論を深め、監視していることが理解できた。

(西川弘美)



会 派 名	公明党
報告者氏名	眞貝維義、西川弘美
種 別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用 務	九州電力玄海原子力発電所視察
日 時	令和6年7月23日（火）9:30 ～ 同日 12:00
場 所 （会場）	佐賀県東松浦郡玄海町今村（九州電力玄海原子力発電所）
調査項目等	稼働に向けての安全対策と地元説明会の在り方・稼働後の安全対策・廃炉計画について
概 要	対応者：玄海原子力発電所長 ■■■■氏、他4名 ①玄海エネルギーパーク管内見学、説明 ②玄海原子力発電所構内見学、説明 ・原子力発電の仕組み（九州電力は加圧水型軽水炉：PWR） ・安全対策（新規制基準と取組み事例） ・特定重大事故等対処施設（原子炉建屋等への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムにより、原子炉を冷却する機能が喪失し炉心が著しく損傷した場合に備えた原子炉格納容器の破損を防止するための機能を有する施設） ・緊急時対策棟設置の工事状況（代替緊急時対策所を設置、緊急時対策棟を新たに設置） ・使用済み燃料貯蔵対策（貯蔵能力変更：リラッキング工事実施、乾式貯蔵施設を設置） ・1・2号機廃止措置の状況（現在は廃炉の4段階の工程のうち、解体工事準備を実施中）
所 感 等	再稼働に向けての地元理解に向けては、地元玄海町を中心に周辺の行政、議会、各種団体や自治会長等への訪問を行った。発電所の安全対策や新規制基準への適合性審査の状況や事故対策訓練状況等の見学会やマスコミへの公開を積極的に行った。 また、様々な機会をとらえてフェイス・トゥ・フェイスによる丁寧なコミュニケーション活動を実施、信頼が第一と考えている。再稼働後4号機は2022年2月に、3号機は2022年11月に特定重大事故等対処施設が完成している。また2024年10月の完成を目指して緊急時対策等の建設が進められている。 1・2号機の廃炉措置については解体工事準備期間（第一段階2026年3月迄）の汚染状況の調査、汚染のない設備の解体撤去工事を進めている。 発電所の立地状況が海拔11mで、津波対策の必要性がないことや岬といった地形から防火対策が取りやすいこと、何よりもPWRの原子炉格納容器の大きさがBWRに比べて水素爆発を引き起こしにくいことなども、九州電力の努力と相まって地元理解・信頼につながっていると感じた。

東京電力 HD は新規制基準適合性審査も終わり、原子力事業者としての適格性にも適合している。最も求められていることが、地元住民や県民からの信頼である。日頃からの丁寧な対応が重要であると考える。
(眞貝維義)

玄海エネルギーパークは、観光施設や子どもの遊び場も併設され、子ども連れの家族や学生、高齢者など幅広い年代の見学者が訪れ、非常に明るい雰囲気包まれていた。

机上説明と構内見学では、PWR の仕組みや安全対策、廃炉の状況について理解できた。廃炉に関しても安全対策が重要で、地元自治体へ進捗状況を逐次報告しているとのことだった。

地元住民の原子力発電所の受け入れ・理解について聞いたところ、玄海町での反対意見は少なく、むしろ「(九州電力さんを) 信用する」という応援の声があるとのこと。町外周辺地域については距離が遠くなるほど意思疎通が難しい部分はあるが、社としては「安全第一」「信頼第一」と捉え、どんな小さな事でも住民にお伝えしていくという姿勢で臨んでいるとの回答であり、その姿勢や取組みが一番大切だと感じた。

(西川弘美)

